

北海道浮魚ニュース

令和3(2021)年度7号

2021年6月30日

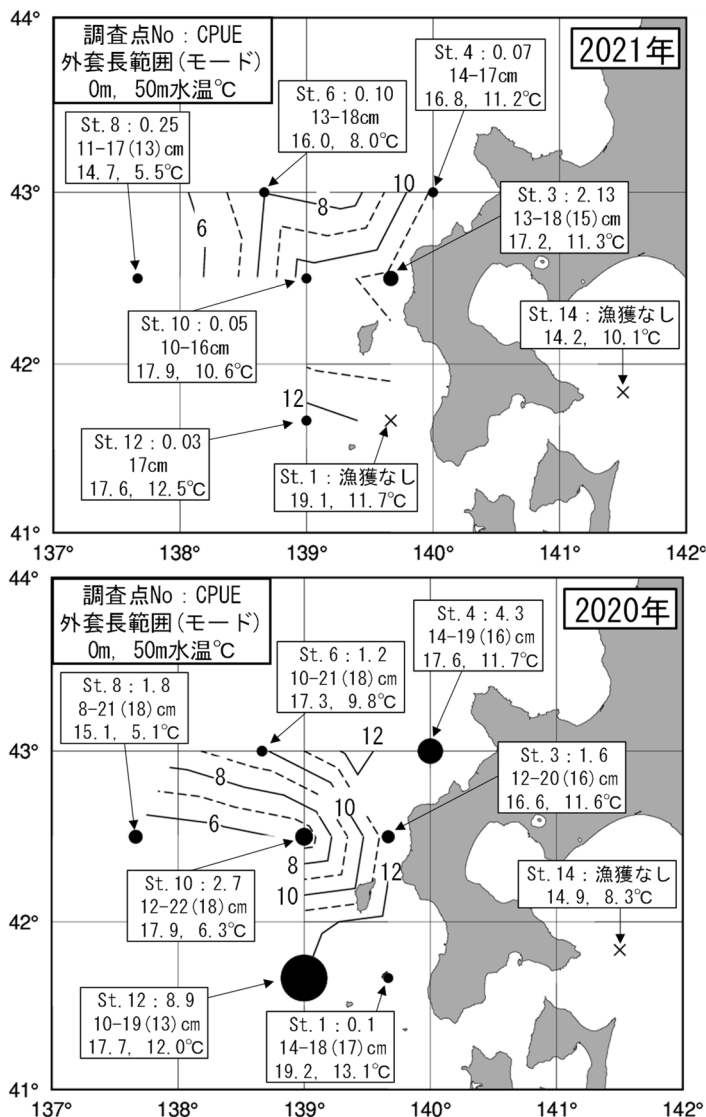
道総研 函館水産試験場

ホームページ：<http://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/central/section/shigen/ukiuo/index.html>

◎日本海スルメイカ漁場一斉調査結果

6月15日～24日の期間、北海道渡島大島周辺から島牧北方沖にかけての日本海および太平洋側の恵山沖で、函館水産試験場調査船金星丸(151トン、イカ釣機5台、集魚灯20灯装備)により実施したスルメイカ調査の結果をお知らせします。

- ・スルメイカの分布密度は非常に低く、昨年及び過去5年平均を下回った。
- ・スルメイカのサイズは昨年と同程度で、過去5年平均より小型でした。



1. 水温分布 (図1)

2021年の漁獲調査点8地点における表面水温は14.2～19.1(昨年:14.9～19.2℃)、深度50m層の水温は5.5～12.5℃(昨年:5.1～13.1℃)でした。

深度50m層の水温は沖合で低く、沿岸で高くなっていました。スルメイカの分布の目安となる深度50mで10℃以上の水温帯は、北緯42°30'以南では沿岸から東経139°付近まで広く分布していましたが、北緯42°30'以北では狭く沿岸寄りの海域に限られていました。

図1 スルメイカ漁獲調査結果と深度50mの等温線図(上:2021年、下:2020年) 矢印の先は漁獲調査点で●の大きさはCPUEに比例。×は漁獲なし。

2. 流向流速分布（図 2）

本調査の航行中に ADCP 観測により得られた深度 50m の流向流速と水温分布を照らし合わせると、対馬暖流は奥尻島西方から岩内沖を北北東方向へ向かっていると考えられました。また、奥尻島東側から岸沿いに南方へ向かう流れが見られました。

道総研では北海道周辺海域で、2 ヶ月ごとに 3 隻の調査船を用いて定期海洋観測を行い、海況速報を発信しています。以下の URL にて公開していますので、こちらをご参照下さい。

<https://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/central/section/kankyuu/sokuhou/>

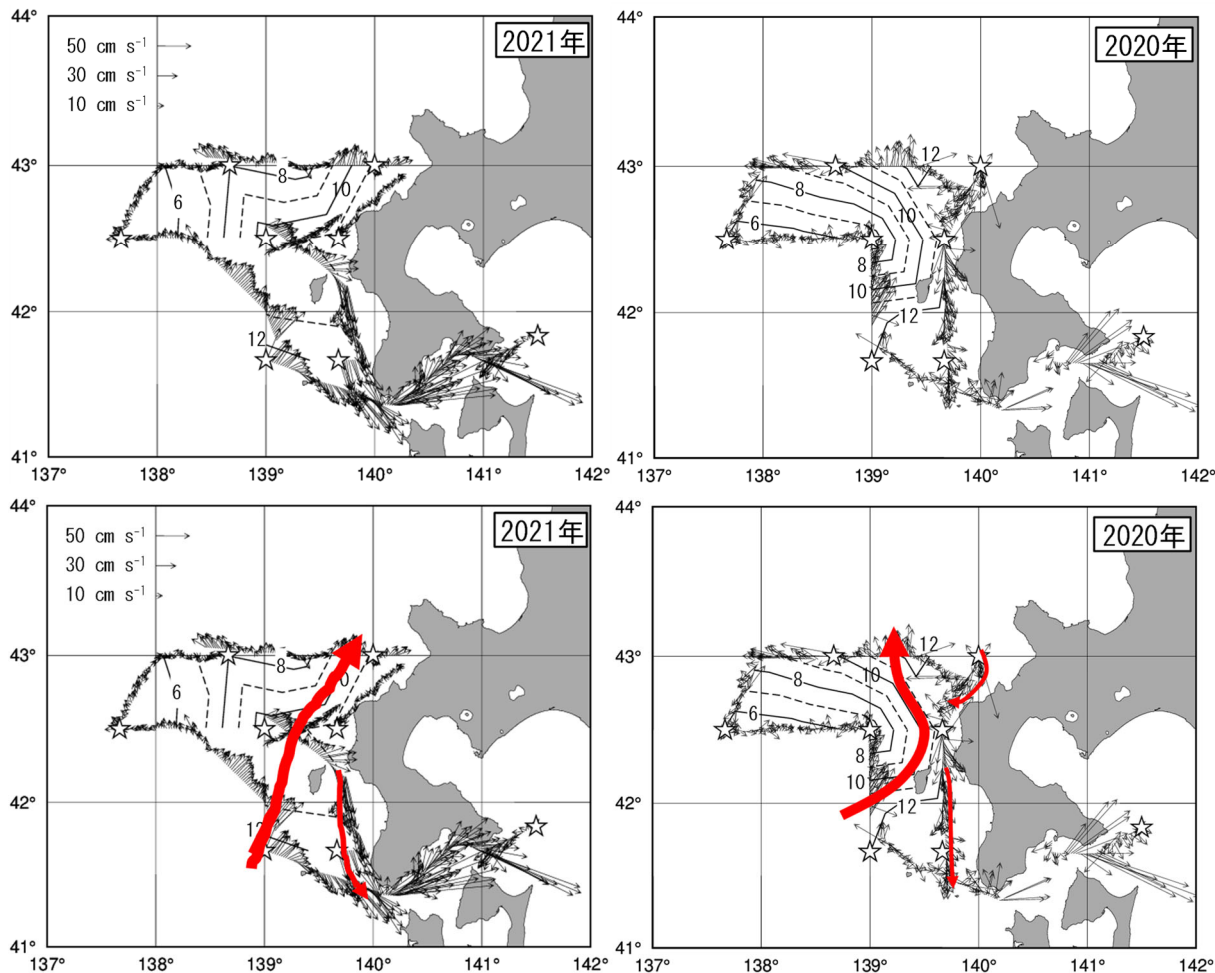


図 2 2021 年（左）と 2020 年（右）の深度 50m の流向流速と等温線図

下段は対馬暖流（太い矢印）の模式図を書き加えたもの。☆は漁獲調査点。

3. スルメイカの分布密度（図 1、3）

2021 年の日本海の漁獲調査点 7 地点における CPUE（2 連式イカ釣り機 1 台 1 時間当たりの漁獲尾数）は 0～2.13（昨年：0.10～8.89）でした。CPUE が最も高かったのは瀬棚沿岸（St. 3）の 2.13 で、それ以外の 6 地点はすべて昨年を下回り、1 以下の低い値でした。漁獲調査を行った 7 地点の平均 CPUE は 0.37 で、昨年の値（2.94）及び過去 5 年の平均値（11.43）を下回り、2010 年以降の最低値となりました。

また太平洋側の恵山沖（St. 14）では、イカ釣り機による漁獲はありませんでした。

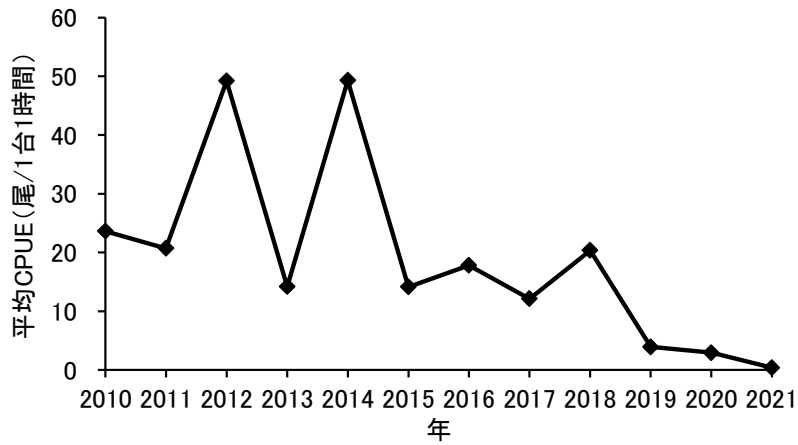


図3 漁場一斉調査における日本海7調査点の平均CPUEの推移

4. スルメイカの大きさ (図4)

今回の調査で漁獲された日本海側7調査点のスルメイカ外套長(胴長)の範囲は10~18cm(昨年:8~22cm)で、最も出現比率が高かった外套長(モード)は15cm(昨年および過去5年平均では13cmと16cmの二峰型)でした。外套長の平均値は15.1cmと昨年並み(14.9cm)でしたが、過去5年平均(17.3cm)よりも小型でした。

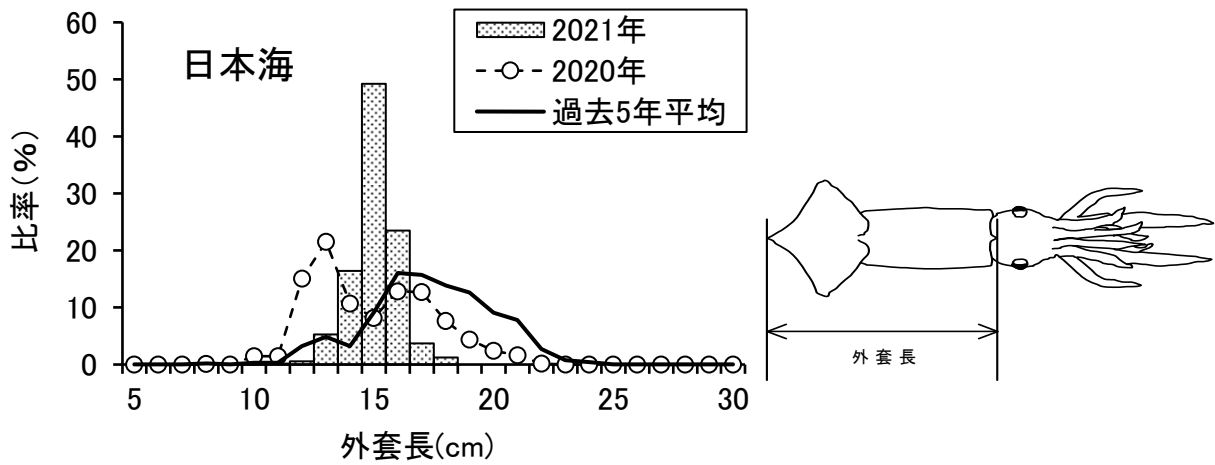


図4 日本海スルメイカの外套長組成

(函館水産試験場調査研究部 TEL: 0138-83-2893、FAX: 0138-83-2849)